

1 1	海部	津島市立神島田小学校	マサキ ユウキ 名前 正 木 夕 貴
分科会番号	2 1	分科会名	「特別の教科道徳」特別分科会

## 研究題目

「互いにつながり合い、共に認め合える児童の育成」

－対話の中で見方・考え方を働かせ、自分の考えを深められる授業の工夫を通して－

## 研究要項

### 1 ねらい

本校では、一人一人が、互いの個性や立場を認め合い、望ましい人間関係を築くことのできる児童の育成をめざして研究を進めてきた。令和4年度は、他者とのかかわりに関する教材を使用し、発問や意思表示法を工夫することで、児童は主体的に考えたり、自分自身の過去の経験を振り返って意見を述べたりすることができるようになってきた。しかし、児童の変容や自己肯定感の高まりに関する評価や、他者に対する理解をさらに深めることについて課題が残った。それを踏まえ、令和5年度は、「対話的な活動」を重視することで、自分の考えを深めようとする児童の姿が見られた。また、各学年の実態に応じた道徳の授業スタイルを構築した。一方で、話し合いを円滑に進め、児童の多様な考えを引き出し、児童同士の考えを繋げることはできたが、児童の道徳的価値を深めるところまでには至らなかった。昨年度までの研究をもとに、「考え、対話する」ことができる切り返し発問の工夫や環境の整備を意識していきたい。また、他者の様々な道徳的価値にも触れることで、他者理解につながっていくと考え、本研究のテーマを設定した。

令和6年度は、道徳科の授業研究3年目として、子どもたちの道徳的価値をより深化させ、道徳の授業だけでなく、学校生活においても、道徳について考える機会を意図的に設定し、生活の中で役に立つ体験をさせたい。そして、ワークシートのポートフォリオ化を進める中で、児童が自身の変容や成長に気づき、「互いにつながり合い、共に認め合える」姿をめざしていきたい。

### 2 研究の方法

#### (1) 研究の仮説

- ① 主発問を精選し、他者の様々な道徳的価値に触れる「対話的な授業づくり」をすることで、自己を見つめ、互いにつながり、認め合う児童の育成ができるであろう。
- ② 道徳の授業を生活に結び付けられる具体的な場を設定したり、自己の変容や成長を感じることができるようワークシートのポートフォリオ化を進めたりすることで、道徳的価値をより深めることができるであろう。

#### (2) 手立て

- ① 仮説1に対して
  - ア 主発問の精選、吟味
    - ・ 考える必然性があり、心が揺さぶられるような切り返し発問の検討
    - ・ 自分事としてとらえられる発問の工夫
  - イ 「考え、対話する」ことができるような環境の整備
    - ・ 児童同士が顔を見合うことができ、対話が交差するような座席の工夫
- ② 仮説2に対して
  - ア 道徳の授業以外での道徳的価値を自覚する場の設定
    - ・ 人権教育や他教科で具体的な場の精選
  - イ ワークシートのポートフォリオ化
    - ・ 児童自身が過去の自分を客観的に見て、自己の変容や成長を感じられるものを精選

### 3 研究の実践

#### (1) 2年生の実践

##### 教材について

- 1 主 題：友だちの気もちになって【B 友情、信頼】
- 2 教材名：「みほちゃんとなりのせきのますだくん」 出典『小学どうとく2はばたこう明日へ』（教育出版）
- 3 ねらい：みほちゃんとますだ君のそれぞれの気持ちや行動について考えることをとおして、自分の思いだけでなく友達気持ちも考えて行動することの大切さに気づき、互いの気持ちを理解しながら接しようとする実践意欲と態度を育てる。
- 4 教材概要：みほちゃんは、ますだ君がいじわるをしたり、暴力をふるってきたりすると感じ、学校へ行けない気持ちになる。ますだ君は、頼りないみほちゃんの世話をしようとするが、裏目に出てしまう。そんなますだ君はある日、意地悪な気分になり、みほちゃんの大切な鉛筆を投げてしまう。すると、歩いてきた子はその鉛筆を踏んで折れてしまう。みほちゃんはますだ君に消しゴムを投げつけて、「意地悪。」と言って泣く。ますだ君はどうしたらいいのかと悩むという話である。

2年生の実践では、自分の思いだけでなく、友だちの気持ちも考えて行動することの大切さに気付かせるために、みほちゃんとますだ君、それぞれの視点で考えさせた。また、考えを深めさせるために、繰り返し発問を行った。

導入では、事前にとったアンケートから「友達の気持ちになって仲良くできているのかな」という点で普段の生活を振り返らせた。教材を通して“友達の気持ちを考えて行動することの大切さ”と、“お互いの気持ちを理解しながら接すること”について考えを深めていくことにした。

深める場面では、まず、みほちゃん視点の文を範読し、場面把握を行わせた。そして、みほちゃんがされたことを整理しながら「このお話を聞いてどう思った」と発問した。児童からは「かわいそう、みほちゃんがいじめられているみたい、かなしそう」と返答があった。そこで「みほちゃんは何も悪いことがないのにますだ君がいじめてきているんだね」と繰り返し発問を行うと、「違う」と首を振る児童に理由を発言させた。みほちゃんにも非があったことを押さえた。その後、ますだ君視点で書かれた続きの部分を配付し範読した。もう一度「お話を聞いてどう思ったか」と発問した。児童からは「お互い様」という意見があり、繰り返し発問【資料1】で意見を深め、お互いに反省すべき点があることを押さえた。

T：「お互い様であつたらぶつてもいいのかな」

「勝手に人の物に書いてもいいのかな」

S1：「ダメ！」

S2：「次使う学年に迷惑がかかるから」

S3：「みんなで集めたお金で買っているものだから」

T：「じゃあ自分のだったらいいの」

S4：「お家の人が買ってくれたものだからダメ」

S5：「ぶつのも命に関わるからダメ」

【資料1 繰り返し発問のやり取り】

まとめる場面では、本時を振り返り、二人が仲良くなるためにはどうしたらよいかを記述させた。記述した内容をペアで話し合う時間【資料2】を設け、全体で共有した。「二人とも仲良くする」「お互いに謝る」等の記述が多くあった。日常の児童の様子から「ごめんね」「いいよ」とのやり取りが多いところから、「謝るだけでいいかな」と発問すると、「これから気を付ける」「謝っても次からできないと意味がない」と次に生かそうとする意見があった。そして、自身が友達と仲良くするために大切なことは何なのかを考えさせ、ワークシートに記述させた。



【資料2 隣ペアで意見交換する場面】

## (2) 3年生の実践

### 教材について

- 1 主 題：相手の立場になって【B 親切、思いやり】
- 2 教材名：「気づく心」 出典『小学道徳3はばたこう明日へ』（教育出版）
- 3 ねらい：お母さんを助けたあとのあつしの気持ちについて話し合うことをとおして、困っている相手の気持ちを考えることの大切さに気づき、思いやりのある行動をしようとする心情を育てる。
- 4 教材概要：あつしは、楽しみにしていた新作ゲームを友達と買いに行くため、公園で待ち合わせをしていた。すると、小さな子をベビーカーに乗せた女性を見かける。親子が困っていることに気づいたあつしは、早く行こうと促す友達を先に行かせて、困っている様子を助けに行く。あつしは、困っているお母さんに声をかけ、道案内をいう親切をやりきり、すがすがしい気持ちで店に向かう。

3年生の実践では、はじめに主人公の行動から心情を捉えさせ、その後、主人公と友達との違いを考えさせた。そして、自分の考えをワークシートに記入させた後に、ペアで話し合いをし、全体で意見交流【資料3】を行った。自分の考えを明確にした後、さらに考えを深めさせるために、繰り返し発問を行った。発問は主人公の心情を読み取った児童の意見の言葉をもとに組み立てた。

導入では、はじめに児童に「親切」とはどんなことなのかをおさえ、親切にしてもらった経験を発表させた。そして、題名の一部を隠した教材を配付し、どんな心が親切を生み出すのか問い、それが今回の教材の題名であることを伝えた。

深める場面では教師が範読し、場面把握を行った。本時では、待ちに待った新作ゲームの発売日に一番乗りで公園に着き、待ち遠しい気持ちになっている主人公の心情を考えた。「楽しみ」「わくわく」など、気持ちが高揚している様子の返答があった。それを踏まえ、「先に行つて」と友達に言ったのはなぜか、自分の考えと相手の考えの相違点を考えながらペアで話し合わせた。その後、友達と意見が同じだったのか、違うのかを含めて「〇〇さんの子どもとお母さんが疲れていそうという意見とは違って、ぼくは、困っていそうだからだと思います」のように発表させた。そうすることにより、発表が苦手な児童の意見も全体で交流することができた。ほとんどの児童が親子に寄り添う意見だったため、「遅くなると買えなくなってしまうかもしれないよ」と切り返したが、「また買えるから大丈夫」「買えなければ違うゲームすればいいから」などの意見が出た。困っている相手の気持ちを考えることの大切さに気付くことができている。「すがすがしい」という言葉の意味を確認し、親切にし、相手に喜んでもらえたことで、自分も嬉しい気持ちになることを押さえた。ここで、あつしと友達の違いを振り返り、教材の題名について考えた。

主人公が親子を思った行動から多くの〇〇な心という言葉が出た。

【資料4】などの意見が出たため、どれも相手を思いやる素晴らしい心であるということを確認した。また、本時の資料では、親子に気付いた主人公と気付かなかった友達の違いがあることを確かめ、本資料の題名は「気づく心」であることを伝えた。ここで「気づいたり、思いやりたりするだけでいいのかな」と発問した。「気づいても行動しないとダメ」と、「気づき」「行動する」ことで相手に親切にできることを確認した。

まとめる場面では、導入で聞いた親切にされた経験から、困っていたり、大変そうだったりする様子に友達が気付いてくれ、行動してくれたことを確認した。本時を振り返り、これからの生活で行っていききたいことを記述させた。



【資料3 ペアで話し合いをする場面】

「優しい心」  
「協力する心」  
「助ける心」  
「きれいな心」  
「気づける心」  
「ふわふわな心」

【資料4 〇〇な心】

### (3) 5年生の実践

#### 教材について

- 1 主 題：本当の「友情」とは【B 友情、信頼】
- 2 教材名：「ロレンゾの友達」出典『小学道徳5はばたこう明日へ』（教育出版）
- 3 ねらい：アンドレ・サバイユ・ニコライ3人それぞれの「友達」に対する考え方のちがいについて話し合うことをとおして、友情の大切さに気付き、友達と互いに信頼し合って友情を育もうとする心情を育てる。
- 4 教材概要：アンドレ、サバイユ、ニコライのもとに友達のロレンゾから20年ぶりに会おうと電報が届く。しかし、電報が届いたころ、ロレンゾが会社の金を持ち逃げし、警察に追われているといううわさを耳にする。3人は何かのまちがいでないかと思いつつも、それがロレンゾ本人ならば友達としてどうしてやるのがいちばんいいのかと悩み、葛藤するという話である。

5年生の実践では、自分がロレンゾの友達なら、“逃がす”か“自首を進める”か“本人に任せる”かで、葛藤を生み出させ、友達に対する行動について考えを深めさせようと考えた。また、自分の立場を明確にした後、心情バロメーターに気持ちを記入させ、全体で意見交換を行った。さらに考えを深めさせるために、【資料5】のような切り返し発問を行った。切り返し発問の内容を事前に3通り考え、児童の意見によって、どの切り返し発問を投げかけるかを選んで授業を行った。

#### 【切り返しの発問】

- ・ ロレンゾが本当にお金を奪ったなら同罪になるけれど、それでも逃がしますか。【アンドレ】
- ・ 自首を進めれば、ロレンゾが罪を犯していると認めているけど、ロレンゾを信じないのか。【ニコライ】
- ・ 罪は罪だから自首を進めるけれど逃がしてあげるのは、本当の気持ちをロレンゾに言えないからなのか。【サバイユ】

#### 【資料5 切り返し発問】

導入では、「友達がいてよかったこと」について考えさせた。「手伝ってくれた」「相談にのってくれた」「勉強を教えてくれた」などの意見が出た。

深める場面では教師が範読し、登場人物の確認や場面把握を行った。本時では、児童の手元にはロレンゾと3人が再会する前までの資料を用意した。そうすることにより、事実が分からない状態で登場人物が「逃がす」「任せる」「通報する」と葛藤する場面を子どもたち自身も誰の考えに近いのか考えることができた。また、ワークシートの心情バロメーターを書いた後、黒板に3人の人物の考えを分けた心情バロメーターにネームプレートを貼る活動【資料6】を行った。そして、話型を使って、それぞれの立場からの意見を発表させた。「逃がす」立場の意見として「大切な友達だから通報したらかわいそう」「20年も前からの友達だから」などの意見が出た。また「任せる」立場の意見として「名前が一緒なだけなのかも」「すぐ通報するのはかわいそう」などの意見が出た。「通報する」立場の意見としては「ロレンゾがこれからもっと罪を犯したら悲しい」「解決させたい」などの意見が出た。3つの立場の中間に示した児童は「ロレンゾに任せるのは困るだろうしやってもいいかも。だから決められない」「何か事情があるのかもしれない」「友達として通報するのはかわいそうだけど、逃げ続けるより罪は軽いのかも」などの意見が出て、友達の意見を聞いて揺れ動く姿があった。



【資料6 ネームプレートを貼る場面】

まとめる場面では、友達の意見を聞いて考えが変わったり、考えを深めたりする児童が見られた。また、登場人物の3人が「ロレンゾ」のことを思って考えていた所から、「相手を想う気持ちが大切である」と意見が出た。

#### 4 手立てに対する考察

##### (1) 仮説1 に対して

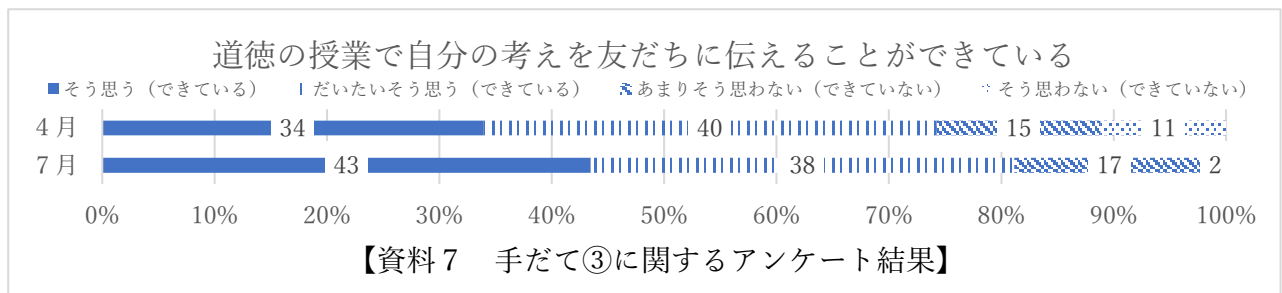
###### ア 主発問の精選・吟味

繰り返し発問を行うことで、児童の考えを揺さぶり、様々な視点から考え葛藤するきっかけとなった。そして、繰り返し発問を重ねることで、話し合いの論点が焦点化され、ねらいとする価値について考えを深めることができた。導入部分では、日常生活で資料と似た場面を意図的に伝えることで、振り返りを行う時に自分事として捉えている様子がワークシートから読み取れた。また、まとめる場面では、本時を学習して「あなたならどうする」と発問することによって日常生活に置き換えて考える姿があった。

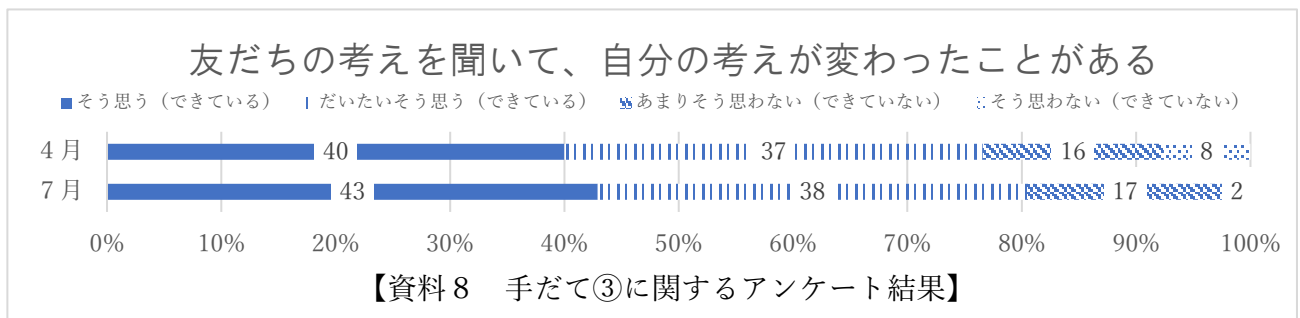
しかし、繰り返し発問で考えを深めることを意識し時間をかけたので、話し合いが充実したものとなった。一方、その後の書く活動で十分な時間を確保することができなかった。より活発な対話的活動のためには、繰り返し発問は有効だが、授業のどの活動に時間をかけるのか、何を書かせるのか精選する必要があると再認識させられた。

###### イ 「考え、対話する」ことができるような環境の整備

どの学年でもコの字の座席を設定した。コの字型に座席を配置することによって、聞き手も「相手の方を向いて話を聞く」聞き方が自然にでき、話し手も「聞き手を見て話をする」話し方ができた。また、対話の仕方を工夫することによって、全体で発表することが苦手な児童もペアであれば自分の考えを伝えられていた。全校を対象にしたアンケートでは、「道徳の授業で、自分の考えを友だちに伝えることができている」という質問に対し、4月当初は「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した児童が74%だったが、実践を終えた7月の時点では7ポイントの増加した。また、そう思わないと回答した児童は2ポイント減少した【資料7】。



そして、「友だちの考えを聞いて、自分の考えが変わったことがある」の質問に対して4月当初は「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した児童が77%だったが、実践を終えた7月の時点では4ポイント増加した。このことから、児童同士の対話を通しての変容もあったと考えられる【資料8】。



##### (2) 仮説2 に対して

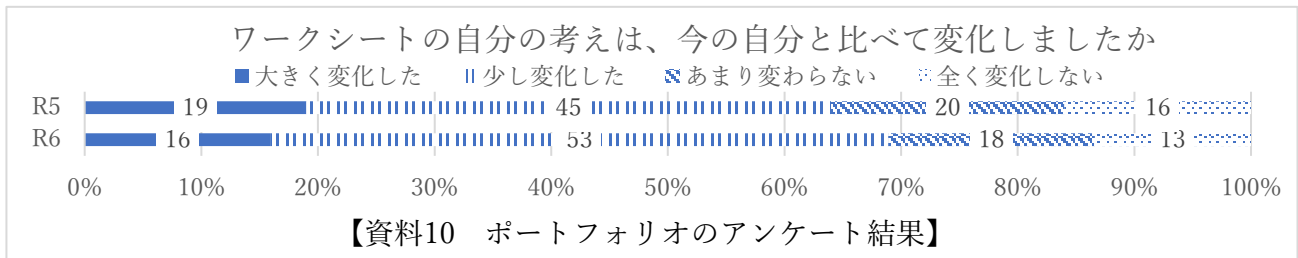
###### ア 道徳の授業以外での道徳的価値を自覚する場の設定

道徳の授業だけでなく、日常でも道徳的価値に触れ、意識をむけるように児童会活動で「あいさつ」に焦点をおいて異学年交流や全校スタンプラリーを行った。意図的に交流会などの場の設定をすることにより、学んだことを実践することができ、今まで関わりが少なかった児童とも関わることもできた。

また、道徳の授業内では、普段の生活を思い起こさせるような発問やこれからの生活に結び付くように振り返りを行った。その後、一定期間をおいて、使用したワークシートをもとに授業を振り返る活動をした。その記述からも道徳で学んだことが異学年交流や実生活に結びついていると考える【資料9】。「ワークシートの自分の考えは、今の自分の考えと比べて変化しましたか」という質問に対しては、今年度、自身の考えが変容していることに

【資料9 ワークシートの記述】

気付く児童が約7割程度いた【資料10】。変化したことが必ずしも成果につながるわけではないが、自分の考えが変容していることを感じる事ができたことは、一つの成果と考える。また、実際の生活で考えたことや気付いたことなどを具体的に記述する児童もおり、授業実践に加え、ポートフォリオ化したことで児童の成長の跡を書き残すことができた。



【資料10 ポートフォリオのアンケート結果】

#### イ ワークシートのポートフォリオ化

児童の変容をつかむためには、学習プロセスを可視化し、深い振り返りを行うことのできるポートフォリオの活用が適していると考えた。そこで、昨年度に引き続き、自己の変容や成長を感じられるように、長期休業前に、これまでの道徳の授業を振り返る活動を行った。授業で使用したワークシートは、ファイルに綴じすることで児童の学びを蓄積しており、それらを基に振り返り活動を実施した。発達段階に応じて使用するワークシートを変え、後述する3つの内容について記述させた【資料11】。1つ目は、一番印象に残った授業の単元名である。2つ目は、その授業での問いに対して、「今の自分ならどう考えるか」と問い掛け、改めて授業と同じ問いについて考えられるようにした。3つ目は、「その授業を学習したことで、実際の生活はどのように変化したか」と2つ目の設問と合わせて、自己の変容や成長に気付くよう設定した。その記述から、道徳の授業で学んだことが、授業以外の実生活で生かされていることがわかった。

【資料11 使用したワークシート】

### 5 研究の成果と課題

#### 〈成果〉

- (1) 切り返し発問を行うことで、教材の内容や登場人物の心情をより追求し、より深い学びに繋がった。
- (2) コの字の座席配置を行うことで、相手を見て話す・聞く姿勢が自然にでき、自分と考えが違う児童の意見に耳を傾けるなど、児童同士の意見交流が活発になった。
- (3) 道徳の授業で学んだことが、児童会活動など、授業以外の実生活で行動に移す児童の姿が複数見られた。

#### 〈課題〉

- (1) 切り返し発問で考えを深めるためには、どの部分を深めるのか、どの部分を記述するのか各授業で精選する必要がある。
- (2) ポートフォリオを進めていくうえで、自分の考えが変化したかどうかだけでなく、変容の質を深めるためにワークシートの記述の内容や道徳以外の言動を見逃さないようにする必要があると感じた。